



ロータリー：変化をもたらす

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

RI会長 イアンH. S. ライズリー

第 2307 号 2017 年 9 月 2 日

No. 8

例会日：毎週火曜日 12:30～13:30
例会場：岐阜都ホテル TEL.295-3100
事務所：岐阜商工会議所 TEL.264-9235

会長：渡部 勝裕 会長エレクト：渡辺 敏昭
副会長：豊田 雅孝 幹事：廣川 重幸
会報委員長：平井 繁利

- ＜四つのテスト＞
1. 真実かどうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるかどうか

W E E K L Y B U L L E T I N

本日のプログラム	
9月2日(土) 第 2307 例会 岐阜BグループIM ガバナー公式訪問 6クラブ合同例会 [8月29日(火)変更分]	担当 会長・幹事

次例会の予定	
9月5日(火) 第 2308 例会 第1例会行事 IM報告	担当 会長・幹事

＜ 前 回 の 記 録 ＞

会 長 挨拶 会長 渡部 勝裕



皆さん、こんにちは。日本の夏と言えば、サザンオールスターズ。50代以上の方々はサザンと共にバブル期を経験されたと思います。

サザンが1978年結成以来、39年もの間、仲良くやってこられたのは、皆で稼いだお金は桑田リーダーを含めて、キッチリ公平に分け合った事にあると言われていいます。

相通じるロータリーの4つのテストは、良い仲間関係を持続する為の大切な心構えでもあると思います。現在、東京はバブル期を彷彿させる様な好景気が持続しています。人手不足が深刻化して銀座の土地評価は1坪（畳2畳分）が、バブル期の1億円を優に超えています。

2016年度国税庁調査による港区の平均所得は実に1,112万円です。因みに男女含めての全国平均所得は420万円、その中央値は350万円、岐阜県はほぼ、その平均所得に位置しています。地方での好景気の実感はあまり感じられませんが、トヨタの元気な東海地区は、全国の中では良いとされています。しかしトヨタにも大きなジレンマがあります。世界の自動車業界の熾烈な競争の中、先進国と中国は電気自動車化を推進し、後進国用にはダウンサイジング等による低燃費エンジン化へと二極化が進む中、ハイブリットで先行しているトヨタは世界でどちらつかずの窮地に立たされています。

ガリバーのトヨタが、なぜ電気ではなく、ハイブリット志向を選んだかは、下請への配慮もあると言われていいます。それは従来の車の部品数3万個の内、電気自動車では40%が不要となり、下請の大量リストラにも成りうるからです。将来、電気自動車はシャープや日立等の電気メーカーでも作れる事になります。トヨタの強みが失われた場合、元気な東海地区が維持できるか。トヨタの健闘を祈るばかりです。

今の小学生が将来就職する頃には今ある職業の半分は無くなっていると言われていいます。10年後の世界は誰にも見当が付きません。我々は今、凄いスピードの変革の時代に生きているという事です。

お 客 様

丹原 美穂 様

出 席 報 告 委員長 安田 達雄

会員総数 51名 / 出席免除者 10名 / 本日の出席者 34名 / 本日の出席率 72.34%

渡辺敏昭君 本日の卓話者の丹原美穂様は、松田会員選考委員長に頼まれて卓話をお願い致しました。東日本大震災の支援や海外でのボランティア活動を、誰の支援がなくても人を助ける事が人と人との繋りを深める原動力となるとして活動をされています。そしてロータリーで何かお手伝い出来る事があればと、ご多忙の中お願いしました。皆様には、ご清聴よろしくお願い致します。

執行部一同 丹原美穂様、岐阜東RCへようこそ。本日の卓話楽しみにしております。

卓 話

丹原 美穂 様

心の架け橋



私がボランティア活動を始めようと思った時の事や、今までの活動を通じて感じた事を、東日本大震災の支援や海外のボランティア活動の様子を題材にしながら、お話したいと思います。

人を助けられるのは人であり、人の繋がりが大きく動いていける原動力となっています。

ボランティア活動の中では、「ありがとう」の言葉を最高のお礼の言葉として頂いています。そして、私達からも「こちらこそありがとうございます」と返していきます。少しの思いやりが相手の心に届き、そしてこちらに返ってくる。そうして心の架け橋となり、しっかりした繋がりとなっていきます。

「困った時はお互い様」助け合い、繋がりを大切にして暮らしていきたい。

「ありがとう」の詩

文房具ありがとう
えんぴつ、分度き、コンパス大切にします。

花のなえありがとう
お母さんとはちに植えました。
花の咲くのがたのしみです。

うちわありがとう
あつい時うちわであおいでいます。

くつをありがとう
サッカーの時とってもけりやすくて、いっしょうけんめい走っています。

クッキーありがとう
家でおいしく食べました。

さんこう書ありがとう
勉強これからがんばります。

図書カードありがとう
本をたくさん買いました。

やしそば作ってくれてありがとう
おいしくいっぱい食べました。

教室にせん風機ありがとう
これで勉強はかどります。

応えんの言葉ありがとう
心が元気になりました。

最後に
おじいちゃん見つけてくれてありがとう
さよならすることができました。

「四つのテスト」の前に（ホントに）をつけて過去形にしてみた。

1. ホントに真実だったか？
2. ホントにみんなに公平だったか？
3. ホントに好意と友情を深めたか？
4. ホントにみんなのためになったか？

自身で振り返ってみると、「うーん？」と唸ってしまいます。

私は平成22年の1月に入会したのですが、入会した時の事を思い起こすと一番の衝撃は「四つのテスト」でした。私はこの四つを実行できるのか？実行してきた人間なのか？自分は入会するに値する者なのか？と悩んだものでした。

更に言えば、「四つのテスト」を前にして、入会以前の私が思い描くロータリアンとは、この四つを実行している「君子」であったのです。

私が「君子」と聞いて思い浮かぶのは「論語」です。ここで孔子が説いていることは、共感はするものの「戒め」の色の方が私にとっては強いものでありました。しかし会員の皆様と活動を共にすうちに、私の心の内にも柔らかな想いが占める様になりました。

改めて申し上げます。会員の皆様、有難うございました。

ただ「和して同ぜず」という教えは、いつも肝に銘じていることでもあります。今後も、私のロータリアンとしてのスタンスは「和して同ぜず」、そして自身のモットーである「情熱・謙虚・自然体」を大切にしていきたいと思います。

最後に、この「発言席」の寄稿に当たり、改めて「ロータリーの心得」ガイ・ガンデッカー著、田中 毅訳を読み返してみました。私が良いなと思っているフレーズは、（各会員に対する義務と責任）の7. にある次のものです。

「成熟した実業家を象徴する 紳士的態度と思慮深さ」

諸先輩には生意気な「発言者」に映るかもしれませんが、庸人にすぎぬ者のなせる業とお許し下さい。今後とも良いお付き合いをお願いいたします。



絵：渡辺 敏昭

（編集責任者 平井 繁利）